Self Introduction

熊本大学医学部外科学第2講座

熊本大学医学部は，1894年に開学した私立熊本医学校にその原点を求めることが出来ます．熊本医学校は，明治・大正期の変遷を経て，1929年5月に官立熊本医科大学となりました．その後，終戦後の学制改革により，五高，薬専，師範学校などの旧制高校や高等専門学校を母体として発足した総合大学である熊本大学の医学部となり，現在に至っています．

さて，当教室は，1927年12月，東京帝大近藤外科出身の木下益雄教授を初代教授として開講し，現在の小川道雄教授で6代目となります．小川教授は，1990年8月に大阪大学第2外科より赴任され，本学出身の教授が約20年余りも続いていた我が教室に新風を吹き込まれました．小川教授は今年で開講10周年になるわけですが，その節目の年に，第9回日本癌病態治療研究会をお世話することができ，教室員一同，大変ありがたく，また光栄に思っています．

現在の教室構成は，教授以下，臨床教授1名，医療短大教授1名，助教授2名，講師1名，助手6名，医員3名，研修医16名，大学院生29名，研究生3名となっており，医学部でも1，2を争う大所帯です．また，外部との交流も盛んで，海外留学中3名，国内留学中3名，海外からの留学生は2名となっています．

小川教授は就任後，教室伝統の消化器外科を中心にした診療を行いながら，研究面では分子生物学手法などの基礎研究を積極的に取り入れられました．研究グループは，助教授，講師，助手などのスタッフを責任者とした生化学，分子病理，侵襲，免疫，細胞生物，移植の6グループより成り，各々のグループに大学院生が配属され，教授の指導を受けながら研究しています．

小川教授の研究に対する基本コンセプトは，「他の研究者がやらないことをやる」ということであるため，常に研究テーマは切り口がユニークであることが特徴です．その結果，サイトカインを中心とした侵襲学および腫瘍外科学の分野で，数多くの個性的な業績が生まれています．

臨床グループは，助教授，講師，助手などのスタッフを責任者とした消化管，肝胆膵，胸部の3グループに分かれて，診療を行っていますが，「患者のための医療」が教室のモットーです．十分なinformed consentに基づいて治療法を選択し，根治的治療が不可能な場合にも努めてQOLが最も高まる治療を行うよう努力しています．

小川教授は厚生省の難治性膵疾患分科会の分科会長および重症膵炎の救命率を上げる研究班の班長，日本消化器外科学会会長，日本膵臓学会会長，その他，いろんな学会の評議員，雑誌の編集主幹などを務められているため，とにかく出張が多いのですが，その合間をぬって，論文校閲，研究の指導，手術，回診，学生講義，会議と教室員も驚くバイタリティで日々こなしておられます．

このように，率先垂範の教授に引っ張られながら航海を続けている第2外科丸です．

（箕田誠司）